



学校教育目標

「共に輝く豊かな子」

本年度キーワード

「話し合っ解決しよう」

「親切な行動をしよう」

発行日 2020年5月8日



文責：校長 鈴木 弘美

## 子どもたちは、今 何を学んでいるか

もしも、「近隣で感染者が」と発表されたら、と想像してみる。けっこうな騒ぎになってしまうだろうか。（どこでうつったの？怖い…。行動範囲は？）私も、心にそんな思いが湧いてきてしまいそうだ。

でも、よく考えてみると、それはおかしい話だ。そもそも、私たちが日々マスクをつけ、人と距離を取り、常に換気をし、手洗い・消毒をしているのは、自分や誰かが（確認されていないけれど）感染者であるという前提だ。その上で、周囲に存在するウイルスを自分の体内にたくさん入れてしまわないように、ウイルスを運ぶことにならないように、今感染していない人に広げないように、対策している、…はずだ。

だから、仮に身近な人の感染が分かったとしても、本当なら慌てることはない。その人のことは心配だけれど、感情的に怖がり過ぎたり、興味本位に詮索したりするのは、かえってマイナスだ。周りの人を、感染を隠そうとする行動に追い詰めてしまうことになり、リスクが高まるからだ。差別にもつながりかねない。

想像力を持って論理的に考え、情報は冷静に受け止めよう—簡単ではないけれど、努めてそうありたいと、自分に言い聞かせている。そして、改めて気付く。その力は学校が目指す学力そのものであると。決まったことをどれだけ覚えたか競っても、これからの社会には通用しない。正解のない課題について、情報をいろいろな人の視点で検討し、自分の頭で論理的に考え続ける人に育てていくこと、学校の役割はこれだ。出口の見えない混乱の中だからこそ、はっきりと見えてくる。

多くの大人が、悩みながらもここで初めて学んでいることがある。そして、その姿を見ながら、子どもたちも学んでいる。情報教育も道徳教育も、今以上に自分事として本気で学べる機会は、そうないだろう。今を、大事にしたい。



### 保護者の皆さんのコメントより

～「お子さんのいい表れや楽しいセリフ、家庭の工夫」をご紹介いただきました～

**1年生**「毎朝テレビを観ながらラジオ体操をしています。最初は表情も動きも固く、ロボットのような感じでしたが、慣れてきて体操になりつつあります。毎日開始時には自分でテレビをつけるのも、時計を見て時間を意識することに繋がっていると思います。」「時々、家族でかるたを、しています。国語の教科書を、少し読みました。」**2年生**「家にある図鑑のような本を毎日読んでいます。読んだあと、いろいろなことを教えてくれるのが日課です。なわとびを毎日欠かさないです。なわとびカードを自作して、二枚目です。」「毎日お父さんと交換日記をしています。文章の書き方を注意され、日に日に上手になっています。休み中に出来ないことは限りなくありますが、できるようになったこともありました。」**3年生**「ほうせんかとひまわりの種を自宅でもまいて観察しています。最近双葉になり日々の変化を楽しんでいます。」「ローマ字練習と合わせタイピング練習をしています。myTypingのひよこでも出来る講座がちょうど良く毎日コツコツやっています。」**4年生**「自分でネット検索をし、家にある材料で作れるものを作ってくれます。はじめは見えないと危ない感じだったのが、今は1人で完璧に一食分をつくれるようになりました！時間はかかりますが、今だからできたこと。すごい成長です。勉強以外のことをやれるチャンスかもしれませんね。」「運動不足解消のため、トランポリンを購入しました。跳んでいると自然と笑顔になります。」**5年生**「理科の教科書やEテレの放送を観て、植物の種の発芽に必要なものの実験を始めました。自分で考えて二年生の妹から、昨年収穫したアサガオの種を借りて、水を浸した脱脂綿にまいて、冷蔵庫とベランダに置いて観察しています。」「料理を毎日手伝ってくれて助かります！早く先生の授業を受けたい！そうです。5年生の勉強も少しずつ自分なりに進めています。」**6年生**「後ろ二重跳びががんばっています！」「楽しみにしていた行事が出来なくなる不安から『今年は無かったことにして、来年また同じ学年をやりたい！！』と言われました(笑)」

## おうち学校 Q&A 気になる問いがありましたら、ご参照ください



子どもに教えてやることができないのですが…。

その方が、かえって良いと思います。学校も、「教えたことを一方的に教える授業」をやめて、「子どもが学んでいく授業」に進化していくところです。どうしたら子どもがもっと考えたくなるのか、工夫して、おうち学校の課題を出したいと考えています。

「親は子よりたくさん知っている」必要はなく、「親が先生代わりに教える」のでもありません。子どもは、教えられるより、「自分が考えることを応援してほしい」のです。

「おうち学校」は、普通の宿題や予習と違うのですか？

はい。違います。「宿題のように、提出するために頑張らせるもの」ではありません。家でも、授業のように、自分で考えたり作業したりまとめたりします。授業が出前されるイメージです。低学年では、まだそれは難しいので、学年によって内容・回数は異なります。

ドリルやプリントの学習だけでは不十分なところを、おうち学校でカバーしたいのです。**子どもの好奇心を刺激し、考えてみたくなる内容を目指しています。**それこそが、今、子どもたちから奪われてしまっている、でもとても重要なことだからです。

時間割表を自分で作ることによって、**計画する力・実行する力も育てたい**と考えています。初めからできる人はいません。でも、できると自信になります。担任も励まします。

「おうち学校」は、授業のように、つけたい力がつきますか？

「おうち学校」は、周りの人と対話しながら学べないところが欠点です。周りの人から気づきを得られないので、残念ながら、学校の授業のようにはいきません。

でも、その代わりに、**自分が学んだことやふりかえりを、1対1で聴いてくれる人がいれば、それは学校より、いい条件**かもしれません。

どういう力がついたか、ふりかえりのポイントを明記してありますので、お子さんに関わるときの参考にしてください。

親に、あまり時間がありません。どうしたらいいのでしょうか？

学習しているときにそばにいられるのなら、「なるほど」「どうしてそう考えた(やった)の?」「すごいね」等と関心を示してください。お子さんが話しやすいように、聴き上手になることが大切です。意欲的に学習していれば、目配りだけで十分です。

学んだ後の見届けしかできなくても大丈夫です。「これどうやって考えたの?」と、お子さんの学び方を知ろうとし、**話を聴き出して**ください。「南チャレカードのふりかえり」を読んで、「そうなんだね。」と**関心を持つ**だけでも効果があります。短い時間で構いません。

「おうち学校」以外に、市販のプリントなどで学習する場合にも、ただ終わらせて丸付けをするだけではなく、この視点での関わりがあると、大いにプラスです。